

天溪 2014 年「チロルとドロミテハイキング 10 日間」

第 2 部

ドロミテの名前は 18 世紀、この山塊の地質構成を研究したフランスの地質学者、デオダ・ドゥ・ドロミューの名前に由来すると言われます。彼はこの山域の豊富な鉱物である苦灰石（ドロマイト）を発見した人物でも有るそうです。サツルンゴからコルチナへ入ったツアーは、その後世界に名を馳せる大岩峰のドライチンネを一周（途中泊）して北上し、再びオーストリアへ入り、聖なる血のハイリゲンブルート、グロースグロックナー（3798m）のフランツヨーゼフヘーエを通り、ザルツカンマーグートへ。ここで 2 日のんびり過ごしてから最終目的地のザルツブルクへ向いました。



（ドライチンネ 9/9 日）

○ドライチンネ

ここ数日アフタヌーンシャワーの襲来で午後 5 時ごろ夕立が。それを見越して若干早めに宿泊地のラバレド小屋到着、間一髪セーフ。今年も昨年同様にロッジのマネージャー・ダニエルさんから景気付けにグラッパの差し入れが有り、乾杯・チンチン。中に飲みすぎてしまい酩酊状態になった人も。ところで左下の写真は塹壕の一部、第一次世界大戦時に掘られた様で岩峰対岸の絶壁をくり抜いて作られていました。



（朝のドライチンネ 9/10 日）



(ラバド小屋 9/10日)

○ザルツカンマーゲート

オーロンツォの駐車場を出発し、国境を越え再びオーストリアへ。昨年はこの辺りで天候が怪しくなりましたが、今年もやはり雨降りに。これで3年続けてこの地は雨、天溪ツアーにとって雨の特異日、特異地方です。そんな訳で雨のサウンドオブミュージックのロケ地シャーフベルグ、世界遺産の写真に登場する湖ハルシュタット、上高地風のコーザウ湖になってしまいました。まあ、残念でしたが2日間ゆっくりしていただいたものと思っております。



(ハイリゲンブルート 9/10日)



(グロースグロックナー 9/10日)



○ザルツブルグ

毎年ザルツブルグへ来ると昨日までの雨は上がり、太陽が差すことさえあり、これも天溪ツアーの特異日です。今年もホーエンザルツブルグ城でのディナー&コンサートが手配できたので、旅の最後を優雅な一時で締め括ることが出来ました。

※ザルツブルグはモーツァルト、モザルトは“アイネクライネナハトムジーク”と言うくらい、ここではこの曲が親しまれています。(為念)



(ザルツブルグ旧市街 9/12 日)



(デザート 9/12 日)

次の天溪ツアーは所をカナダに移し「紅葉のカナディアンロッキー9日間」をお伝えします。9月半ばでも欧州はまだ晩夏、しかしカナディアンロッキーは秋深くなっています。

記 天溪 赤